



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY



第11回例会(10月2日)
令和2年10月9日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL 019 (651) 1111(代)
例 会 日 毎週金曜日12時30分～
<https://www.morioka-rc.jp/>

会 長 米内 正
幹 事 大平 騰一
報 告 佐藤 仁志
クラブ事務局 TEL 019 (653) 5682
FAX 019 (653) 5622

RI会長テーマ Rotary Opens Opportunities:ロータリーは機会の扉を開く…ホルガー・クナーク
盛岡RC会長テーマ 奉仕の輪を拡げ困難を乗り越えよう 米内 正



ゲスト卓話

米山梅吉翁と彦部村

紫波町文化財調査委員

長澤聖浩 様

今日はロータリーの設立者である米山梅吉翁と岩手県彦部村との関係についてお話します。米山梅吉氏は三井信託銀行の初代社長として知られる経済人です。三井の歴史は江戸時代の延宝元年(1673)三井越後屋として創業したのが始まりで、明治時代には三井合名株式会社を組織し、日本を代表する企業として国内外で活躍し、財閥を形成するに至りました。

ところが、財閥だけが利益を独占するという批判が高まり、三井合名理事長の団琢磨が暗殺されるという事件が起こります。これにより三井では経営方針を大きく転換。3000万円(現在の貨幣価値にして数千億円余)という巨額の資金を寄付し昭和9年(1934)に三井報恩会という社会事業財団が設立されました。その初代理事長が米山梅吉氏でありました。

当時東北地方の農村は非常に苦しい状況でした。経済恐慌による米価、生糸価格の大暴落、昭和8年(1933)には三陸大津波、昭和9年(1934)には東北地方大冷害という大変な時期でした。農民は生活に苦しみ、娘の身売りや欠食児童が社会問題になったのです。この際救いの手をさしのべたのが米山梅吉氏が理事長の三井報恩会でした。

三井報恩会では被害の大きかった青森県と岩手県から1カ村ずつ経済更生のモデル農村を指定することになり、青森県西平内村と、岩手県彦部村を指定しました。青森の平内町(旧西平内村)は浅虫温泉の東側に位置し養殖ホタテ日本一のホタテの町、津軽三味線の高橋竹山の生誕地としても知られています。

彦部村は現在の紫波町の東側に位置し、北上川に沿って北から犬吠森、星山、大巻、彦部の4集落が南北に細長く連なっており、古来より稲作が盛んな米どころとして知られています。地域の先輩には銭形平次の作者として知られる野村胡堂が

●スピーカー紹介●

昭和52年、紫波町大巻生まれ
平成11年、岩手県立農業大学校(のうぎょうだいがっこう)卒業
現在、株佐藤正行種苗 勤務
平成18年、紫波町文化財調査委員に任命される
平成29年、「赤石渡船物語」で岩手県芸術選奨受賞
著 書
「農家の年中行事」「三井報恩会と岩手県彦部村」「稲は人の足音を聞いて育つ」「紫波の有線放送とその時代」など、郷土史に関する著書多数

おり、集落の丘の上には「野村胡堂・あらえびす記念館」があります。

こうして彦部村は、昭和10年(1935)2月に三井報恩会より農村振興のモデル農村に指定されました。昭和10年(1935)から15年(1940)までの指定期間に当時の村の年間予算が21700円の時に、報恩会より5カ年で35800円という巨額の資金を援助されました。

彦部村で行われた事業は大きく4つあります。1つ目が指導組織の構築。村内15区に農事実行組合を組織し、農作業を共同で行い、毎月常会(会合)を行いました。当時の実行組合は現在もそのままの形で存続しています。

2つ目が農業生産。乳牛や綿羊を飼育し、ムシロなどの藁製品を生産し、農家の副収入源を確保しました。3つ目が産業組合(現在の農業協同組合)の経営内容を改善。一度破綻した産業組合を立て直しました。4つ目が生活改善指導。台所改善や農繁託児所の設置などを行いました。

有畜農業の推進ということで、村では報恩会がオーストラリアやニュージーランドから輸入した綿羊100頭を導入。貨車で日詰駅まで運ばれた綿羊はそこから彦部村まで約4km歩いてきました。彦部地内の橋を綿羊たちが渡る写真が残されています。村にはホームスピンの加工場が建築され、染色、機織りまで全て行い岩手県内の多くの村から娘さんたちが彦部に学びに来たそうです。後には生産したホームスピンを秩父宮殿下に献上するという栄誉も得ました。

乳牛のホルスタインは北海道の町村牧場より導入してバター生産が行われ、盛岡の公会堂多賀(洋食店)に納めていたそうです。これら乳製品の生産が基になり、戦後紫波町古館には不二家の練乳工場が誘致されたのでした。村内に建築された共同作業所では、村の女性達が集まってムシロ

やカマスの生産が行われ、女性たちも収入を得るようになりました。

春と秋の農繁期には小学校に託児所が設置され、農家の主婦らに大いに喜ばれました。この託児所も岩手県内に先駆けて開設され、周辺の村々に広がっていったそうです。彦部村中心部には「三井報恩会特定振興村」と書かれた大きな木柱が立てられ、村人らの誇りとなっていたそうです。

昭和11年6月7日、米山梅吉理事長はじめ報恩会の役員の方々が彦部を訪れました。この時米山さんは彦部村をくまなく視察されました。彦部小学校に米山さんがいらっしゃって子供達にビスケットをお土産に持ってきたそうです。これは米山さんがポケットマネーで買ったものらしく、しかも全校児童に一箱ずつ配ったそうで、当時お菓子など食べた事も無かった子供らは大変に驚き大喜びしたという逸話が残っています。また、彦部で生産されたバターも自ら購入して蔭ながら販売に協力するという温かい心の持ち主であったようです。

5年間の指定期間で、彦部村の村民所得は約2

倍に増加。地域経済は大きく改善され、岩手県農村の手本とされるまでに至ったのです。ところがその後戦争の時代となり、終戦後には財閥が解体されます。時代の大きな流れの中で、報恩会と彦部との繋がりには途絶えてしまいました。

それから長い年月を経て70年後、平成18年より彦部地域の歴史研究グループが活動する中で、米山梅吉氏が行った彦部村での三井報恩会の活動に再び光があたり、平成23年より静岡県三島の米山梅吉記念館及び東京の三井報恩会、同時に指定された青森県平内村との交流が始まりました。これを契機として、彦部村では米山梅吉氏と報恩会に感謝しなければとの声がおこり、平成26年6月11日に当時の木柱を復元した記念碑を建立し、記念式典を行いました。当日は米山梅吉記念館の関係者や三井報恩会理事長ら多くの関係者出席のもとで盛大に行う事ができました。

私達彦部地区民は、米山梅吉翁より受けた御恩に感謝し、これからも米山梅吉氏と三井報恩会の業績を末永く語り継いでゆきたいと願っています。

例会報告

第11回例会
令和2年10月2日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 米内正会長
- ・国歌 君が代
- ・ロータリーソング (奉仕の理想)
- ・ゲスト 長澤聖浩様
(紫波町文化財調査委員)
- ・会長報告 米内正会長
- ・皆出席バッチ (8月)
西島光茂君 (6年)
- ・入会祝 村井研一郎君
- ・誕生祝 盛田洋太郎・榎野信治・
佐々木憲明・岡村弥君
- ・結婚祝 岡村弥・川村登・駒木進・
中村芳樹・土屋克之・諏訪泰幸・
坂本広行君
- ・幹事報告 大平騰一幹事
- ・終了後定例理事会開催
- ・委員会報告

【ニコニコBOX】

- ◆金沢滋君…私の愛妻は、紫波町の日詰商店街出身で、義父はそこで米穀店を営む東北大卒の歴史オタクです。長澤さんの話をお聴きし、義父にも聴かせたかったとニコニコしています。
- ◆田中堯史君…10月は米山月間です。米山月間の初めの例会で長澤さんから卓話をいただきました。ありがとうございます。地域の大きな財産である乙部の顕彰碑の整備と米山梅吉翁の顕彰に務めて参りたいと思います。皆さんのご協力をお願いいたします。
- ◆諏訪泰幸君…昨日が中秋の名月ということで、お月見だんごをご注文いただきありがとうございます。旧暦では7月、8月、9月か秋、まん中の8月15日が中秋の名月です。東北では、お月見だんごは中にあんが入ったものが一般的ですが、関西では外にあん、中国四国地方では串だんごをお供えするみたいです。稔りの秋に感謝してニコニコします。

- ◆米内正君…長澤聖浩さん「米山梅吉翁と彦部村」をテーマとする卓話ありがとうございました。会員一同があらためて米山梅吉翁の遺徳を知るよい機会となりました。感謝をこめてニコニコします。
- ◆近藤駿君…小川先生、先週は岩手医大の創立の頃のお話を分かりやすく卓話をして下さりましてありがとうございました。実は私の祖父が盛岡に来たのは三田俊次郎先生に「盛岡さ医学校をつくるからおめはんこねすか」と誘われてとのことです。その時祖父と外科の先生、産婦人科の先生と三人で来たそうです。まずは盛岡病院で働き始めたようですが三田先生の話が違うと言う事で、祖父以外の先生方は東京に帰ったのに、祖父は「今病院に来ている眼科の患者さん、全部連れて行ってもいいから盛岡で開業しなさい」と言われ、今の所で開業したそうです。小川先生のお話と時代が合うので我が家の伝説は本当だったんだと確認しました。なんとなくすっきりしましたので感謝してニコニコします。

出席報告

会員数/77名

出席数/50名

出席率/68.49%

前々回/休会



プログラムのお知らせ

- ・10月9日(金) 米山奨学生卓話 趙玥棋さん (米山記念奨学生)「日本留学の成果」
- 16日(金) 第2回クラブアッセンブリー
- 23日(金) ゲスト卓話 佐藤光彦様 (盛岡ローカルハブ(株) 代表取締役社長)
「新しい盛岡バスセンター (ローカルハブとマザリウム) (仮)」
- 30日(金) 特別休会②

●本号編集担当/吉田明弘